

## 第2回WGの実施結果（球磨村・五木村）

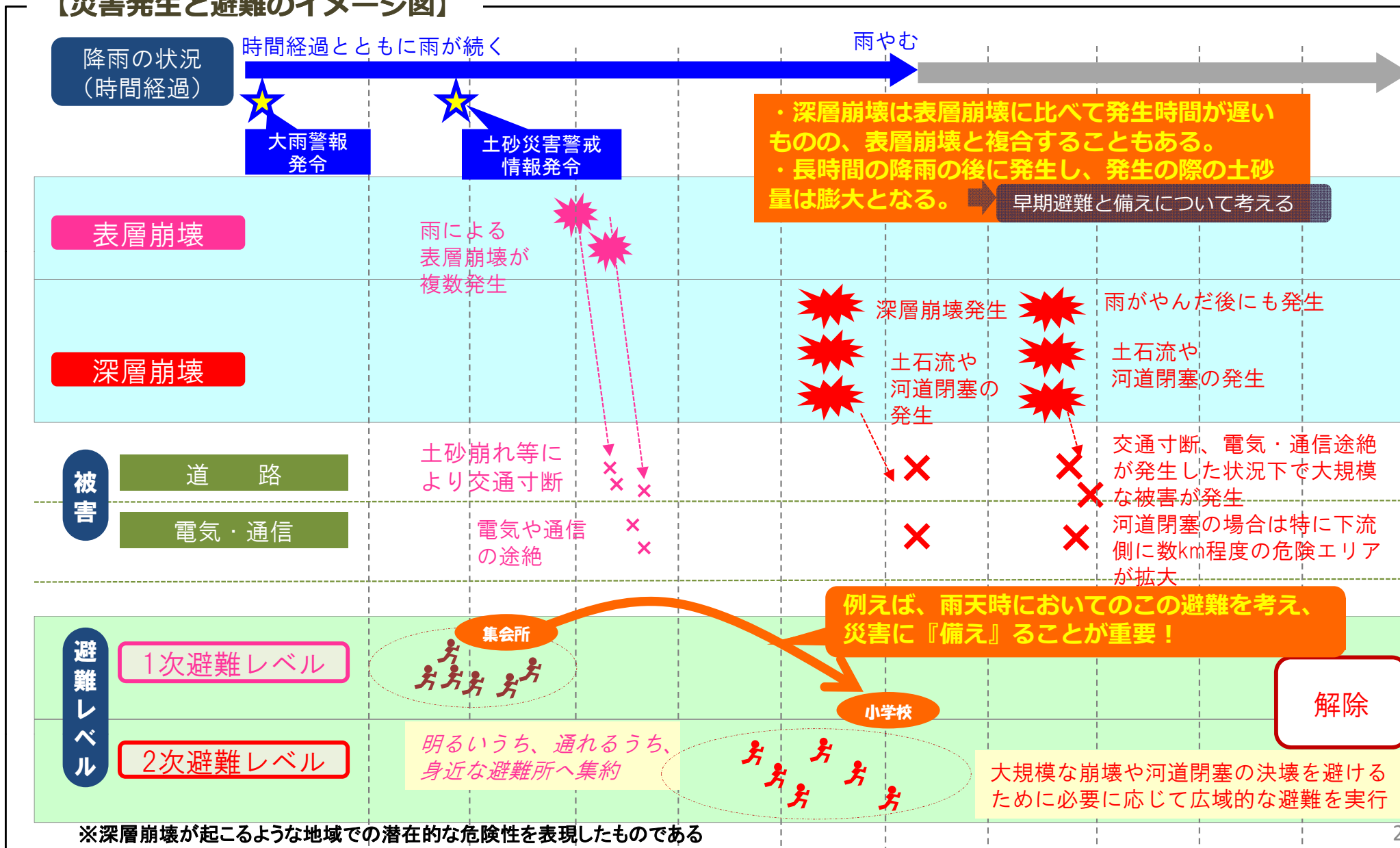
大規模土砂災害時に考えられる行動の実践

# 第2回ワーキングのテーマ

【大規模土砂災害の発生に備え、『1次避難⇒2次避難』を意識した訓練を通し、意識向上と課題把握を実施】

・各地区の各住民が意識を持って備えること《自助・共助意識》の重要性の掘り起こしや、危険箇所の地域防災マップ等への反映を含めた確認・見直し

## 【災害発生と避難のイメージ図】



# 球磨村 第2回ワーキング結果

- ・平成26年5月29日(木)17:30～19:00
- ・於：高沢集会所(1次避難所)～旧高沢小学校(2次避難所)及び高台(つつじ公園)
- ・40名強の参加(高齢者、子供を含む)、マスコミ(後日テレビにて特集が放映)

## 【高台(2次避難所)への避難訓練の実施】

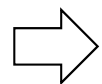
- ・大規模土砂災害に対し、より安全な高台の避難所に避難
- ・皆で歩くことで様々な“気づき”を獲得
  - ⇒高齢者とともに早期避難することが必要
  - ⇒空振りでもよかったねと言える環境作りが必要
  - ⇒避難路の勾配や避難時間、注意点が把握できた

## 【避難経路・避難場所に対する気づき】

- ・近くても登るのは一苦労、思ったより登れた等、避難行動の認識にやや個人差があった(年齢差も関係したと想定される)
- ・思ったより警戒すべきところ(危険箇所等)があった(急傾斜地、水の出る箇所、土石流・がけ崩れの恐れ等)
- ・左右岸で避難の条件が異なることが分かった
- ・避難所を集まりたくなる場にしていくことは重要

## 【大規模土砂災害に対する公助へのニーズ】

- ・高沢地区での大規模土砂災害に関する情報
  - ⇒大規模土砂災害発生が懸念される箇所の確認
  - ⇒上記箇所が崩壊した場合の災害規模の情報が欲しい
- ・このWGの結果を防災マップとしてもらいたい。(備えに役立つ)



POINT：早期避難と備えが重要



# 球磨村 第2回ワーキング結果

## 【ワーキング実施風景（球磨村）】



・約400mの道のりを歩行



・報道陣も参加



・避難に係る時間、経路における要注意箇所等を確認



・子供も参加



# 球磨村 第2回ワーキング結果

## 【ワーキング実施風景（球磨村）】

- ・避難訓練映像、集会所での協議状況



# 五木村 第2回ワーキング結果

- ・平成26年6月20日(金)13:30～15:00
- ・於：竹の川集会所(地区1次避難所)～三浦体育館及び三浦集会所(地区2次避難所)
- ・約30名の参加(高齢者を含む)、マスコミ



## 【上流(2次避難所)への避難訓練の実施】

- ・大規模土砂災害に対し、より安全な2次避難所へ避難
- ・地区の防災ハザードマップ(マイハザードマップ)の更新に繋がる情報を抽出、意識の醸成
- ・皆で歩くことで様々な“気づき”を獲得
  - ⇒高齢者とともに早期避難することが必要
  - ⇒空振りでもよかったねと言える環境作りが必要
  - ⇒避難路の勾配や避難時間、注意点が把握できた

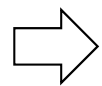
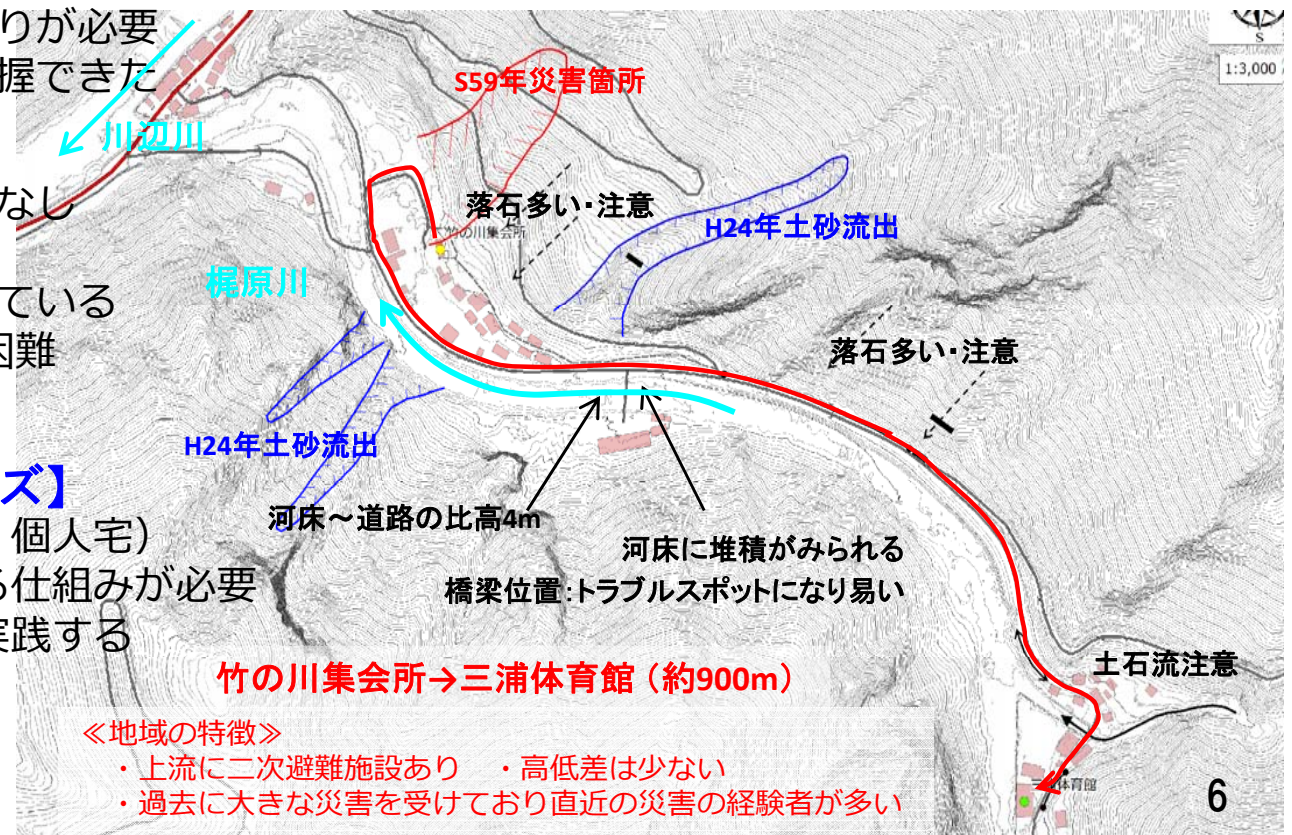


## 【避難経路に対する気づき】

- ・ガードレール一部区間なし、街灯全区間なし
- ・H24に出水、土砂崩壊が多数あった
- ・日頃から散歩等で使用している道で慣れている
- ・出水、土砂崩壊で2次避難所へ行くのは困難
  - ⇒早めの避難が重要

## 【大規模土砂災害に対する公助へのニーズ】

- ・避難場所をもっと安全な場所に(発電所、個人宅)
- ・避難時の指揮命令やそれが有効に機能する仕組みが必要
- ・避難方法の徹底は、住民と行政の双方で実践する



POINT  
早期避難と備えが重要

### 《地域の特徴》

- ・上流に二次避難施設あり
- ・高低差は少ない
- ・過去に大きな災害を受けており直近の災害の経験者が多い

# 五木村 第2回ワーキング結果

## 【ワーキング実施風景（五木村）】



・約900mの道のりを歩行



・意見交換風景



H24豪雨時の被災範囲について確認

竹の川地区11名の住民、五木村、熊本県はじめ関係機関とマスコミが参加。現地踏査と集会所での意見交換を実施

# 五木村 第2回ワーキング結果

## 【ワーキング実施風景（五木村）】

- ・避難訓練映像、集会所での協議状況





## 第2回地域とのワーキング結果のまとめ

### 【第2回 地域とのワーキング】

- ・ 5/29 球磨村(高沢地区)、6/20五木村(竹の川地区)で実施
- ・ 大規模土砂災害に直面することを想定した住民による早期避難行動(自助・共助)の必要性の認識、警戒避難に対する課題やニーズの抽出、連携・支援に求められる事項の把握を、訓練の実践により実施
- ・ 加えて、地区・地域を取り巻く環境に応じ、テーマを設定  
(球磨村；高台への避難、五木村；マイハザードマップの更新)

### 【住民の大規模土砂災害への備えの必要性を醸成】

- ・ 実際に『歩く』ことで、避難時間、高低差、体力差、過去の経験、気づき等を共有
- ・ また、避難経路周辺の危険箇所、過去の災害をあらためて認識
- ・ 大規模土砂災害の規模感や特徴を認識、お年寄りを援けながら一緒に早期避難する習慣の必要性を確認
- ・ たとえ空振りがあっても早めの避難が重要、より高台への避難が重要といった意見を確認
- ・ 継続的・繰り返しの訓練が大事。(非常用バッグの準備等も普段から準備しておくことが必要など)
- ・ 避難方法の徹底は、住民・行政の双方で実践する必要がある

### 【地区住民との訓練が、対策支援に繋がることを確認】

- ・ 住民、自治体、関係機関での合同訓練の実施が『自助・共助意識の向上』『それぞれの備えの強化』等、啓発に繋がることを確認。また、**顔の見える関係の形成に大きく寄与、有事の対応力強化が期待**
- ・ 警戒避難に対する**経験・知見、技術ノウハウなどは、地域防災力や住民対応力向上に活かせることを確認**
- ・ 地区の抱える課題や問題に対する支援事項や連携事項が明らかにできる
- ・ **地域防災マップの作成や地区防災計画への支援に各機関が寄与できることを確認**
- ・ 地域防災マップの更新を、継続的に行うこと(災害時の記録を残すこと)が重要